

「青年海外協力隊」隊員募集について

アジア・アフリカ・中近東・中南米・南太平洋の開発途上の国々へ、社会の発展のために、技術・技能を身につけた心身ともに健全な青年男女を派遣する青年海外協力隊では、昭和五十八年度第三次・第四次隊員を募集しています。

応募資格は、各種技術・技能を有し実務経験のある二十歳から三十五歳までの日本国籍を有するかたとなっています。派遣期間は二年間で、派遣に要する経費は青年海外協力隊事務局から全額支給されます。

募集期間は五月三十一日までで、選考は一次試験と二次試験が行われます。

一次試験は、技術・英語・作文の筆記試験
二次試験は、個人面接と技術・英会話の面接試験となっています。

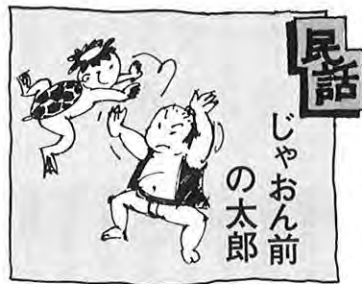
なお、応募説明会を、(1)五月十日、玉名市民会館、(2)五月十一日、八代市厚生会館、(3)五月十二日・二十日、熊本市産業文化会館で、(1)・(2)は午後六時から、(3)については、午後六時三十分から行います。

願書の請求、その他詳細については、県総務部広報外事課、電話熊本八三局一一一一番内線二八二七番、または国際協力事業団九州支部熊本出張所、電話二二局一三一五番へおたずねください。

むかし黒肥地村に「げんどん」という力自慢の男がおったそうなの。「げんどん」の一番の得意は相撲で村内では勿論のこと、近所そこらでも誰一人として勝つものはいなかった。

夏の盛りをやがて迎えようとする或る晩のこと、風もなくむし暑い夜で寝ぐるわしさに「げんどん」は小用に起きた。そうすると庭先に目だけ光らせた黒い小人のような者が立っていて、

「げんどん」に、「相撲ば取ろうか」と挑戦してきた。そこは自信満々の「げんどん」のことだ。心よく応じた。「げんどん」は、こんな子供みたいな奴、投げ飛ばしてやれとむんずと組んだかと思うと、



やつとばかり投げつけた。ところがのれんに腕おし、奴は空中で一回転くると地面に立って、ここにこ笑っておった。その小人は、「おらまだ負けとらんぞ」となんべんもなんべんも挑戦した。こんな具合で一晩中勝負はつかない。流石(さすが)に「げんどん」もへとへとに疲れてしまった。ところがそれが毎晩のように現われては相撲を挑むのだから「げんどん」の方はたまらない。日に日に「げんどん」は、や

せ細り顔色も悪くなってきた。そうしたある夜「げんどん」は、いぶかって「あんたは誰なの？」と聞いてみた。黒い小人からは「おらアじゃおん前の太郎たい」と返事がかえってきた。「げんどん」は、それを聞いて大王社の前の淵の河童なのかと気づいた。思案した挙句、ある秘策を考えた。次の日も日がくられて、やがて小人がやってきて、また相撲を挑んだ。

「げんどん」と小人が四つにがっぷり組んで、もみ合っているところあいを見計らって、「げんどん」は腹巻から小石を取り出し小人の頭を叩いた。するとガチンと音がして何か

がわれる音、そして水がサラサラと落ちた。そのとたん小人の力は抜けてへなへなと座りこみ「負けたバイ」の言葉を残し何処かへ姿を消してしまった。

それからは、その河童は現われなかった。「げんどん」は命びろいをした。でも昭和の初めごろまでは、じゃおん前の淵には河童がいると、子供達の間には信じられていたそう。今では球磨川の流

れも瀬音も変ってしまったという。
多良木町児童文化研究会



カマノクド

●熊本県指定天然記念物

人吉盆地を東西に貫流する球磨川の支流鳩胸川の河床には、黒曜石、軽石、火山灰などの火山噴出物が一緒に固った溶結凝灰岩がみられる。

カマノクドは、河川の流水と共に、河床を転がって流れてくる砂礫が、溶結凝灰岩の軟かいくぼみに入って、流れの速い流水によって回転し、丸い穴を掘り、次第に大きく、深くなってきた河床の浸食地形(甌穴^{おうけつ}Ⅱポットホール)である。

甌穴の岩肌は、砂まじりの流水によって美しく磨食され、水は、多数の甌穴群の間を瀬となり洄りとなって流れる。

人吉市赤池原町鳩胸川に架けられた石野橋から上流約五百メートルに及ぶ河床に見られる。

(昭和三十七年九月十日指定)